

## 障がい者に係る投票環境向上に関する検討会（第2検討チーム・第1回）議事要旨

1 日 時 平成22年9月17日（金）10:30～12:00

2 場 所 総務省11階共用1101会議室

3 出席者

笹川委員、清水委員、金内閣府政策企画調査官（関委員代理）

4 議事次第

（1）開会

（2）管理課長挨拶

（3）メンバー紹介

（4）説明

○障がい者施策の方向について

○点字及び音声による候補者等情報の提供について

（5）意見交換

（6）検討会の今後の進め方について

（7）閉会

5 議事の経過

- 総務省自治行政局選挙部管理課長の挨拶の後、メンバーの紹介が行われた。
- 内閣府から「障がい者施策の方向」についての説明が行われた。
- 総務省から「点字及び音声による候補者等情報の提供」についての説明が行われた。
- その後、点字及び音声による候補者等情報の提供について、意見交換が行われた。

[以下、各メンバーからの主な意見]

- 視覚障がい者への選挙情報の提供については、いろいろな事情があると思うが遅れている。視覚障がい者は、全国で約31万人いるといわれているが、点字を日常的に使っている者は1割程度であり、多くは点字が読めないため音声によらざるをえない。また、視覚障がい者の大半は拡大文字であれば読むことができる弱視者であり、文字を読むことが基本であることから、拡大文字による選挙情報も重要となっている。このため、点字、音声、音声コード付き拡大文字の3種類により配布される必要がある。

- 現時点では、作成等に時間的制約があるということもあり、選挙のお知らせとして配布されることもやむを得ないとするが、将来的には、点字、音声、音声コード付き拡大文字による選挙公報が配布されるようにすべきである。
- 選挙のお知らせ版の配布における最大の課題は、選挙管理委員会が視覚障がい者の名簿を正確に把握していないことにより、視覚障がい者への個別配布が十分にできていないという実態である。しかし、ほとんどの自治体では、それぞれの自治体における広報誌を点字やカセットテープにより視覚障がい者に配布しているようであり、その配布に係る情報を活用すれば課題を解消できるのではないかと考えられる。
- 東京都の知事選挙や議会議員選挙では、昭和50年頃から選挙公報の全文点訳を行っている。その配布方法については、東京都の広報誌の点字版を作成、配布している団体に依頼し、その配布対象者に対して配布しており、ほぼ必要となる方には行き渡っていると思われる。
- デイジー（以下、CD）版であれば長時間の録音が可能のため、将来的にはカセットテープからCDに移行することが必要である。ただし、高齢者にとっては新しい機器の取扱いが難しい場合も多いため、現時点ではカセットテープとCDを併用することが必要と思われる。
- CDは単価が安く、複製も容易と思われるため、より早く作成、配布することができるのではないかと考えられる。
- CDや音声コードについては、再生機が必要となるが、その普及について自治体ごとに視覚障がい者への支援に差があるため、その普及も課題である。
- 視覚障がい者の団体組織率は低く、組織に加入していない人の把握は難しいが、そのような方々への配布方法も考えるべき。
- 視覚障がい者の団体組織率が低いということであれば、選挙情報の周知方法に工夫が必要ではないかと考えられる。例えば、点字等による選挙情報を必要とする方が、いつでも連絡できるように、市区町村の広報誌等にその連絡先を掲載するなど、日常的な周知が必要と考える。
- 選挙のお知らせ版を自治体の施設等に備え置いて対応することとしても、視覚障がい者の方々にはそれを利用するための時間的余裕はなく、当該施設を訪れた際のつい

でに利用する程度となってしまう。

以上の意見交換の後、総務省から検討会の今後の進め方について説明が行われ、次回の第2検討チームでは、事務局で課題を整理した上で、選挙のおしらせ版の配布方法等について具体的に検討することとなった。

以上

(文責：事務局)